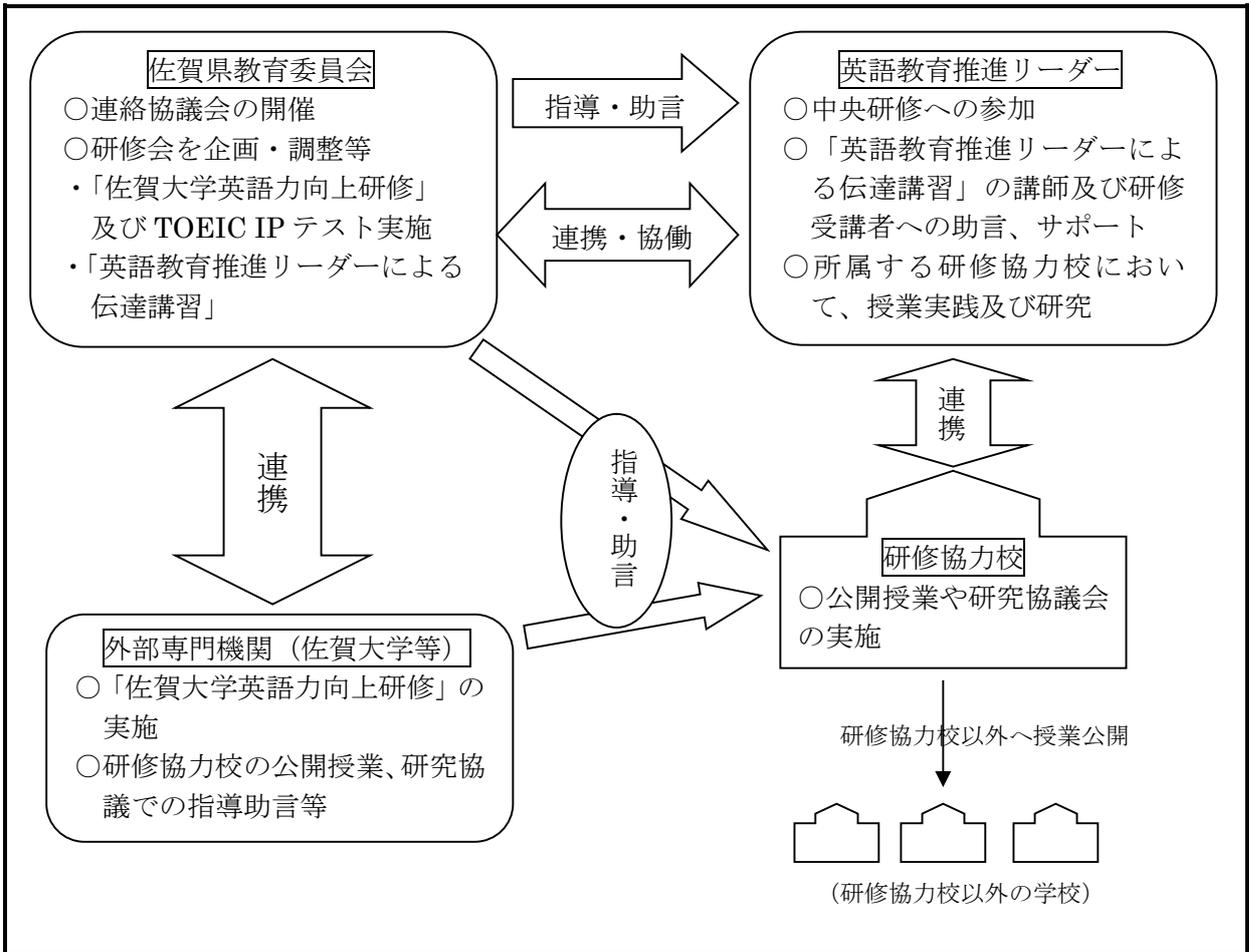


(様式3-2)

# 佐賀県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

【佐賀県の英語教育の状況・課題及び目標値】

「平成29年度英語教育実施状況調査」結果を過去の数値と比較すると、高等学校及び中学校ともに各指標についてほぼ横ばい状態であり、指導改善について顕著な伸びが見られなかった。高等学校においては、「求められる英語力」を有する教員が増加し、国の目標数値を達成することができた。また、中学校においても、学習到達目標の設定が100%となり、これを活用した指導・評価の改善につなげる体制が整った。

このように、平成29年度の上記調査において、複数の指標における改善が見られるのは、教員が自らに求められていることや今後の英語教育の方向性を理解し実践につなげているためであると考えられる。

しかし、実際に県の目標値を達成できなかった指標も少なくないこと、小学校については相応の英語力を有する教員が不足すること、そして何よりも高等学校及び中学校の生徒の英語力について大きな伸びが見られないことについては、平成30年度の課題である。

平成29年度の結果を踏まえ、平成30年度においては、県全体の英語教育の改善をさらに図るために、PDCAサイクルにより各種研修や方策を戦略的に計画・実施する。

## (高等学校 ー 目標管理 ①～⑧)

No.	指標内容	H26	H27	H28	H29	H29	H30	
		達成値	達成値	達成値	目標値	達成値	目標値	
①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合	64%	66%	79%	85%	85%	90%	
②	求められる英語力を有する生徒の割合	32%	31%	34%	50%	33%	50%	
③	学習到達目標の整備状況	設定	100%	100%	100%	100%	100%	
		公表	24%	60%	85%	100%	83%	100%
		達成状況の把握	58%	55%	83%	100%	85%	100%
④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合	44%	47%	53%	70%	54%	70%	
⑤	パフォーマンステストの 実施状況 スピーキングテスト(回)	コミュ英Ⅰ	/	1.6	2.9	2	3.4	3
		コミュ英Ⅱ	/	1.6	2.6	2	3	3
		コミュ英Ⅲ	/	0.9	1.2	2	0.9	2
		英語表現Ⅰ	/	1.2	1.2	2	0.8	3
		英語表現Ⅱ	/	1.1	1	2	1.1	2
	パフォーマンステストの 実施状況 ライティングテスト(回)	コミュ英Ⅰ	/	1.2	2.7	2	2.8	3
		コミュ英Ⅱ	/	1	2.3	2	2.6	3
		コミュ英Ⅲ	/	0.8	1.3	2	1.3	2
		英語表現Ⅰ	/	2.2	2.9	3	2.1	3
		英語表現Ⅱ	/	2.9	4.8	3	4.6	3
⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況	/	51%	60%	85%	59%	85%	
⑧	英語担当教員に対する研修実施回数	/	6	8	6	6	6	
	研修受講者数	/	170	259	200	201	200	

## (中学校 ー 目標管理 ①～⑧)

No.	指標内容	H26	H27	H28	H29	H29	H30	
		達成値	達成値	達成値	目標値	達成値	目標値	
①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合	26%	30%	36%	50%	38%	50%	
②	求められる英語力を有する生徒の割合	30%	32%	27%	50%	33%	50%	
③	学習到達目標の整備状況	設定	37%	48%	100%	100%	100%	100%
		公表	0.8%	11%	23%	40%	18%	40%
		達成状況の把握	21%	24%	42%	60%	51%	60%
④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合	51%	65%	66%	80%	75%	80%	
⑤	パフォーマンステストの実施状況スピーキングテスト(回)	/	2.6	2.7	3	2.6	3	
	パフォーマンステストの実施状況ライティングテスト(回)	/	2.7	1.9	3	2.1	3	
⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況	/	55%	66%	70%	66%	70%	
⑧	英語担当教員に対する研修実施回数	/	6	8	6	6	6	
	研修受講者数	/	215	295	245	202	250	

## (小学校 ー 目標管理 ⑦～⑧)

No.	指標内容	H26	H27	H28	H29	H29	H30
		達成値	達成値	達成値	目標値	達成値	目標値
⑦	相応の英語力を有する小学校教員の割合	/	/	0.5	3.0%	0.5%	3.0%
⑧	小学校教員に対する研修実施回数	/	5	5	7	7	7
	研修受講者数	/	210	216	686	693	650

### 【目標達成のための手立てについて】

「(様式10)目標管理書」に掲げた目標値を達成するために、佐賀県教育委員会では次のような取組を行う。

- (1) 外部専門機関(佐賀大学)と連携して、県内小学校教員、中高英語教員を対象に研修を行い、その指導力・英語力を高める。研修受講者のうち、中高英語教員についてはTOEIC IPテストの受験機会を与えるなどし、指標内容①の目標達成を目指す。
- (2) 英語教育推進リーダーによる伝達講習会等を行い、英語教育推進リーダーが中央研修で受講した内容や自ら実践したことを小学校中核教員、中高英語教員、外国語指導助手に伝達する機会を設ける。これにより、指標内容②～⑥の目標達成を目指す。
- (3) 「(様式10)目標管理書」の指標内容及び「平成29年度英語教育実施状況調査」の設問内容に準じて、各市町教育委員会に対して目標設定を促す。この中で、小学校教員が外部検定試験を受験するよう促し、指標内容⑦の増加を目指す。また、県立高等学校に対しては、同様の目標設定を促すとともに、英語部会や学校訪問等を通じて指導を行う。
- (4) 上記(1)～(3)に加え、「小学校伝達講習フォローアップ研修会」を実施する。英語教育推進リーダーによる伝達講習を過去に受講した中核教員を対象に、講習内容を振り返ることにより指導方法の定着を図るとともに、授業実践及び校内研修の取組事例を共有し、指導方法の工夫改善を図る。

### 【事業の内容及び実施方法】

上記(1)の研修を「佐賀大学英語力向上研修」とし、佐賀大学と佐賀県教育委員会が連携しながら研修内容や日程を設定する。また、上記(2)の研修を「英語教育推進リーダーによる伝達講習」とし、平成29年度中央研修を受講した英語教育推進リーダーがその講師を務める。佐賀県教育委員会と英語教育推進リーダーは研修を企画・実施するだけでなく、研修後に研修受講者が学校において実践したことに対して助言等を行う。

また、英語教育推進リーダーが所属する学校のうち、小中高1校ずつを研修協力校に指定し、学習到達目標(CAN-DOリスト)を活用した指導・評価の改善等について研究する。その際、佐賀大学を中心に年に複数回指導助言を仰ぐ機会を設けるなどし、公開授業等を通して県内全域において研修成果の普及を図る。

### (3) 研修の体系と内容の具体

#### 【研修の2本柱】 A「佐賀大学英語力向上研修」 B「英語教育推進リーダーによる伝達講習」

研修Aは主に教員の英語力そのものを高めるもの、研修Bは授業改善に直接つながるものとし、主にこの2つの研修を通して、県全体の英語教育の充実を図る。平成30年度までこの2本柱で研修を実施するが、各研修受講者にその都度アンケートを実施するなどして研修評価をし、PDCAサイクルにより各種研修等を計画・実施する。

なお、研修Aにおける小学校教員に対しては、英語力向上と合わせて指導力向上にも係る研修内容とする。

(研修Aの対象者及び実施予定回数・受講予定者数)

- |           |                      |
|-----------|----------------------|
| ①小学校教員    | 6月～11月の中で3回(161名×3回) |
| ②中学校英語科教員 | 8月～9月の中で2回(約40名)     |
| ③高校英語科教員  | 8月～9月の中で2回(約20名)     |

※②③については、英検準1級等の英語力を必要とする教員を対象とする。

## (研修Aの目的及び内容)

- ・ 基礎的な英語によるコミュニケーション能力を有し、自信を持って小学校外国語活動及び英語の授業に臨むことのできる小学校教員を養成する。具体的には、教授法、音声学、教室英語など外国語活動に必要な技能を高める実践的なプログラムとし、佐賀大学及び英語教育推進リーダー等を講師とする。  
 なお、小学校での外国語の教科化を見据え、研修B（英語教育推進リーダーによる伝達講習）に参加する「中核教員」とは別に、県内すべての小学校（161校）から1名参加することとする。この研修は、「佐賀大学英語力向上研修」の一部と位置づけ、「小学校英語指導力向上研修」とする。これにより、自信をもって指導できる小学校教員を増やす。また、研修を3年間継続することで、1つの小学校に中核教員を含む研修受講者が複数在籍することを目指し、当該教員が校内で連携・協力しながら研修を推進し、各校における外国語指導体制の充実を図る。
- ・ 生徒の確かな英語力を育成するために必要な高い英語力と指導力を備えた中学校・高校英語科教員を養成する。具体的には、4技能を高める指導法やTOEIC IPテスト対策講座などをプログラムに組み込む。なお、佐賀大学での研修を受講した中高英語科教員（約60名）は、11月を目途にTOEIC IPテストを受験し、自らの英語力を確認するものとする。

## (研修Bの対象者及び実施予定回数・受講予定者数)

- |              |                     |
|--------------|---------------------|
| ①小学校教員・講師    | 6月～10月の中で3回（50名×3回） |
| ②中学校英語科教員・講師 | 6月～10月の中で3回（50名×3回） |
| ③高校英語科教員・講師  | 6月～10月の中で3回（50名×3回） |

## (研修Bの具体的内容)

- ・ 研修前の県の取組として、参加者に研修のねらいを十分に周知する。また、参加者がフィードバックや支援を受けながら授業実践し、その成果を校内研修等で伝達しやすい体制を整えるため、管理職にもカスケード（伝播）研修について周知する。
- ・ 英語教育推進リーダーは、中央研修で受講した内容や所属校で実践したことなどを小学校中核教員、中高英語科教員、外国語指導助手に伝達する。
- ・ 県は、研修後、一過性の研修で終わらないように、継続して指導法の工夫改善に取り組むよう指導する。具体的には、各セッションの指導法を各単元や1コマの授業の中に、どのように取り入れ、セッションと教材双方の特性を生かしながら、計画的に4技能を育成するための指導や評価について研究を実践するよう求める。研修のまとめとして、授業の1コマを録画したDVDと共に、児童生徒の変容や校内研修の在り方について報告書にまとめ、提出させる。
- ・ 小中高の研修協力校は、児童生徒の思考力・判断力を育成しながら英語によるコミュニケーション能力を身に付けさせるため、授業指導と学習評価の改善等に係る研究を行う。その際、外部専門機関（佐賀大学等）に複数回指導助言を仰ぐ機会を設け、公開授業等を通して県内全域において研修成果の普及を図る。

## (4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	第1回研修協力校連絡協議会(半日)	
5月		大学の教員による研修協力校への訪問及び指導助言等(前期)
6月	小学校英語指導力向上研修①(1日) ※英語教育推進リーダーによる講義、演習等 英語教育推進リーダーによる伝達講習① (小中高教員対象 - 1日)	
7月	英語教育推進リーダーによる伝達講習② (小中高教員対象 - 1日)	
8月		小学校英語指導力向上研修②(1日) ※大学の教員による講義、演習等 佐賀大学英语力向上研修①(1日) ※大学の教員による講義、演習等
9月	研修協力校による公開授業の実施(半日) (9月～12月で実施)	大学の教員による研修協力校への訪問及び指導助言等(後期) 佐賀大学英语力向上研修②(1日) ※大学の教員による講義、演習等
10月	小学校英語指導力向上研修③ ※英語教育推進リーダーによる講義、演習等 英語教育推進リーダーによる伝達講習③ (小中高教員対象 - 1日)	
11月	佐賀大学英语力向上研修受講者対象 TOEIC IPテスト実施 (小中高教員対象 - 半日) 小学校伝達講習フォローアップ研修会 (中核教員対象 - 半日) 外国指導助手指導力等向上研修 ※英語教育推進リーダーによる演習等	
12月		
1月	第2回研修協力校連絡協議会(半日)	
2月		
3月		
【その他の取組】		

